

**令和5年度実施
(2023年度実施)**

**雇用主アンケート
調査報告書**

**令和5年(2023年) 9月
別府大学短期大学部 就職委員会**

はじめに

本学の雇用主アンケートは、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的として、卒業生の雇用先にご協力をお願いして実施しています。

また、同時期に実施している卒業生アンケートについても同様の目的で、卒業生の協力のもと、本学の教育内容の改善に活用させていただいております。

この雇用主アンケートは、短期大学部を卒業した全ての卒業生の雇用先にアンケートの協力依頼を行い、本年度も雇用先から多くの貴重なご意見をいただきました。

この場を借りて、お忙しいなかアンケート調査にご協力いただいた本学卒業生の雇用先の方々に心よりお礼申し上げます。

本委員会で作成した「雇用主アンケート調査報告書」が、学生教育においてディプロマ・ポリシーである、①教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）、②専門力（専門に関する基本的な知識、技能）、③汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）の修得に活用され、本学の教育の質向上の一助になることを心から願っております。

令和5年(2023年)9月

別府大学短期大学部 就職委員会

目次

令和5年度卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領	1
雇用主アンケート調査結果	
（1）食物栄養科調査結果	2
（2）初等教育科調査結果	7
「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領	18
別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー	19
食物栄養科「雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価	21
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）	21
2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）	22
3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）	23
初等教育科「雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価	24
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）	24
2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）	24
3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）	25

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

(目的)

第 1 条 学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

(所轄部署)

第 2 条 当該調査に関する所轄部署は、学生事務部（担当部：キャリア支援課）とし、関連部署（FD 委員会および就職委員会）と連携して行う。

(調査対象)

第 3 条 調査対象は以下の 2 つとする。

- (1) 本学を卒業した過年度の卒業生
- (2) 卒業生の就職先、学生が就職活動を行っている企業・団体等

(調査方法)

第 4 条 調査方法は以下の手順で行う。

- (1) キャリア支援課で送付先を抽出する。
- (2) 質問項目は、FD 委員会および就職委員会でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成する。
- (3) アンケート実施期間は、第 2 四半期から第 4 四半期の一定期間（10 日間程度）を定め、対象者に送付する。
- (4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。
- (5) 回収方法は、インターネットやファックス等を用い、対象者が回答しやすい方法にて行う。

(集計・分析)

第 5 条 集計及び分析は下記の部署が担当し、企画運営会議へ報告する。

- (1) 卒業生・雇用主アンケートの集計は、キャリア支援課が担当する。
- (2) 卒業生アンケートの分析および報告書作成は、FD 委員会が担当する。
- (3) 雇用主アンケートの分析および報告書作成は、就職委員会が担当する。

(公表)

第 6 条 企画運営会議は報告に基づき、教授会の儀を経て、年度内に大学ホームページに掲載公表する。

(その他)

第 7 条 調査方法や質問事項等については、本調査の目的を逸脱しない範囲で修正、変更等を行う。

以上

附 則

この要領は、令和 3 年 4 月 21 日から施行し、令和 2 年 8 月 1 日から適用する。

雇用主アンケート

調査方法	アンケート協力依頼文書を郵送し、WEBによる回答を集計		
調査期間	アンケート協力依頼文書発送日(令和5年7月20日)から同年8月10日回答締め切り		
調査対象	各科とも令和3年度卒業生の雇用先全数調査		
	食物栄養科	29施設(社)	回収率 37.9%
	初等教育科	132施設(社)	回収率 45.4%

食物栄養科【送付：29 回収：11 回収率：37.9%】

【I. はじめに貴施設(社)についての基本事項にお答えください】

問 1-1：御回答いただく貴施設(社)の所在地を市町村までお答えください。

所在地	回答数	割合
大分県大分市	4	36.4%
大分県別府市	3	27.2%
大分県日出町	1	9.1%
大分県臼杵市	1	9.1%
熊本県熊本市	1	9.1%
東京都	1	9.1%
合計	11	

大分市の回答数が 36.4%と最も多く、次いで別府市の回答数が 27.2%と多かった。大分市と別府市で全体の約 6 割を占めていた。令和 4 年度卒業生の就職した施設の所在地として、大分市内は 4 割、別府市内は 1 割、その他の市町村は 3 割であり、県外は 2 割であったため、回答所在地の比率と概ね一致しており、特に別府市の回答率が高かった。

問 1-2：御回答いただく貴施設(社)の従業員数・職員数(企業の場合は全体の人数)をお答えください。

従業員数・職員数	回答数	割合
1～49	5	45.4%
50～99	1	9.1%
100～499	0	0%
500～999	1	9.1%
1,000～	4	36.4%
合計	11	

令和 4 年度卒業生の就職先として、こども園・保育園に就職したものが全体の 3 割近くを占めて

おり、それらの施設の特性から 50 名未満という回答が 45.4%を占めていた。また給食受託会社に就職したものが全体の 2 割近くを占めており、それらの施設の特性から 1,000 名以上という回答が 36.4%を占めていた。

問 1-3：御回答いただく貴施設（社）の業種をお答えください。

業種	回答数	割合
保育園・保育所・認定こども園	4	36.4%
給食受託会社	4	36.4%
介護施設	1	9.1%
小学校	1	9.1%
小売業	1	9.1%
合計	11	

保育園・保育所・認定こども園と回答した施設が 36.4%、同じく給食受託会社と回答した施設が 36.4%となり、概ね令和 4 年度卒業生の就職した業種の比率と合致していた。

問 2 現在の本学卒業生が就いている職業（業種）をお答えください。

職業（業種）	回答数	割合
栄養士（調理員含む）	10	90.9%
接客	1	9.1%
合計	11	

栄養士（調理員含む）が全体の 90.9%を占めており、令和 4 年度卒業生が栄養士（調理員含む）として就職した者が就職決定者数あたり約 9 割と高い比率であった結果と概ね一致しており、卒業生が免許や専門知識を活かして就職していることが伺えた。

問 3 過去 5 年以内に貴施設に就職した卒業生についてお伺いします。

（ア）現在、何名が在職していますか。〔食物栄養科卒業生のみ〕

在職人数	回答数	割合
1～2 名	5	45.4%
3～5 名	3	27.3%
5～9 名	3	27.3%
合計	11	

今回のアンケートで回答の多かった保育園等の特性として、1 施設当たりの栄養士の雇用人数が 1～2 名であるため、この問いの回答も 1～2 名の回答数が 45.4%と最も多くなったものと推測できる。中には、保育園等において 3 名の卒業生が在職している施設も見られた。また給食受託会社の回答では 5～9 名と回答しており、多くの卒業生が継続して働いていることが分かった。

（イ）離職した卒業生がいる場合、以下の表に記載ください。（採用年月順）

	性別	採用年・月	退職年・月	在職期間	退職理由
1	女	令和元年 4 月	令和 4 年 3 月	3 年	転職希望

2	女	令和2年4月	令和5年3月	3年	転職希望
3	女	令和4年4月	令和4年11月	8か月	自己都合
4	女	令和5年4月	令和5年5月	1か月	転職（公務員）

※ 勤務期間は調査結果を基に作成者が記入

今回、回答いただいた内容では、離職するまでの期間の最長が3年、最短が1ヶ月となっていた。
退職理由としては転職希望が多かった。

問4 新卒者の採用にあたり、重視していることはどのようなことでしょうか。

コミュニケーション能力(3件)	向上心(2件)	調理技術(調理師免許含む)(2件)
人間性	協調性	自主性
責任感	素直さ	明るさ
前向き	意欲	接遇マナー
大学からの推薦		

新卒者の採用にあたっては多くの施設が「コミュニケーション能力」や「向上心」を重視しているという回答が多くみられた。また「調理技術」や「接遇マナー」を重視しているという回答もみられた。

【Ⅱ 2023年に就職した本学卒業生についてお伺いします。】

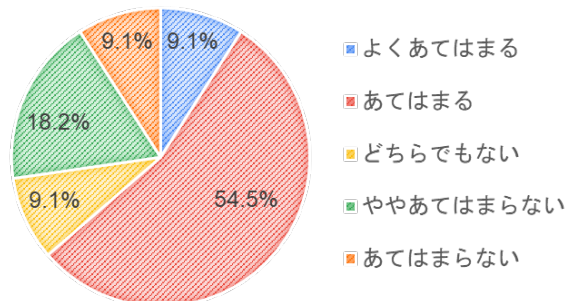
本学卒業生に対する印象について、問5～問9の項目において5段階評価（該当番号に○印）でお答えください。

[1：よくあてはまる 2：あてはまる 3：どちらでもない 4：ややあてはまらない 5：あてはまらない]

〈教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

問5 短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	9.1%
2：あてはまる	6	54.5%
3：どちらでもない	1	9.1%
4：ややあてはまらない	2	18.2%
5：あてはまらない	1	9.1%

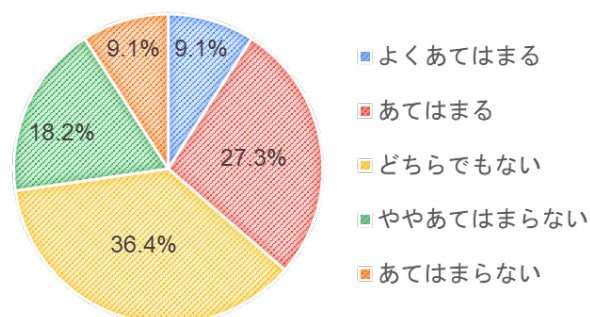


基礎的な教養については、「1 よくあてはまる、2 あてはまる」の合計割合が63.6%を占めており、6割以上の施設の卒業生が基礎的な教養を身につけているとの評価であった。しかしながら、「4 ややあてはまらない、5 あてはまらない」の合計割合が27.3%を占め、昨年に比べて比率が高くなっており、一部の卒業生については施設によって評価が低いことが分かった。

〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

問6 専門に関する知識・技能を修得している。

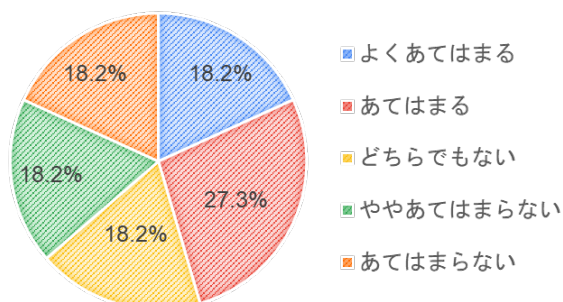
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	9.1%
2：あてはまる	3	27.3%
3：どちらでもない	4	36.3%
4：ややあてはまらない	2	18.2%
5：あてはまらない	1	9.1%



専門に関する知識・技能の修得については、「1 よくあてはまる、2 あてはまる」の合計割合が36.4%であり、3 割以上の施設で卒業生は専門に関する知識・技能を修得していると評価された。また「3 どちらでもない」の回答が最も高く36.3%であったが、一方で「4 ややあてはまらない、5 あてはまらない」の合計割合が27.3%であり、昨年に比べて専門力に関する評価が得られなかった卒業生の割合が高くなっていた。

問7 判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	2	18.2%
2：あてはまる	3	27.3%
3：どちらでもない	2	18.2%
4：ややあてはまらない	2	18.2%
5：あてはまらない	2	18.2%

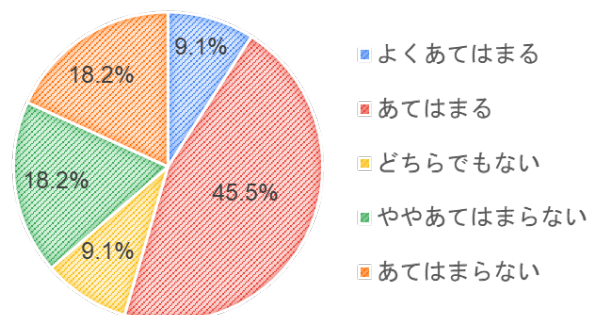


判断力・表現力の修得については、「1 よくあてはまる、2 あてはまる」の合計割合が45.5%を占めており、4 割以上の施設で卒業生は専門職として職業生活を円滑に始めることができている。しかしながら、「4 ややあてはまらない、5 あてはまらない」の合計割合が36.4%と多く、昨年よりも比率が高くなっており、判断力や表現力の修得については評価が分かれていた。

〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

問8 社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。

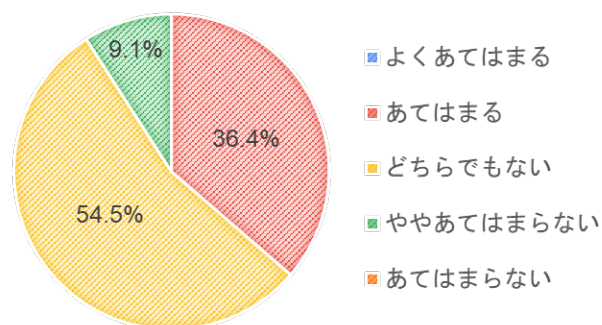
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	1	9.1%
2：あてはまる	5	45.5%
3：どちらでもない	1	9.1%
4：ややあてはまらない	2	18.2%
5：あてはまらない	2	18.2%



「1 よくあてはまる、2 あてはまる」の合計割合は54.6%を占めており、5割以上の施設で卒業生は思考力や実行力を備え、コミュニケーション能力を発揮していることが分かった。その反面、「4 ややあてはまらない、5 あてはまらない」の合計割合が36.4%と多く、昨年よりも比率が高くなっており、思考力、実行力やコミュニケーション能力の修得については評価が分かれていた。

問9 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	0	0.0%
2：あてはまる	4	36.4%
3：どちらでもない	6	54.5%
4：ややあてはまらない	1	9.1%
5：あてはまらない	0	0.0%



「1 よくあてはまる」の回答数は0であり、「2 あてはまる」の回答が36.4%と低く結果となったが、約5割の施設が「3 どちらでもない」と回答していた。「4 ややあてはまらない」の回答が9.1%と低いことから、昨年に比べて情報通信技術を活用できていることが分かった。

問10 その他、ご意見ご要望などございましたらご記入ください。

- ・非常に優秀な人材であり助かっています。
- ・真面目に真摯に取り組む好感が持てる学生です。
- ・とても素直な卒業生ばかりです。

卒業生に期待するお褒めの言葉をいただく一方で、各設問の回答の中では評価の低い卒業生も一部見られたことから、就職先や業務内容に合わせた個別の指導が必要であると思われた。

初等教育科【送付: 132 回答:60 件 回答率 45.4%】

【Ⅰ はじめに貴施設(社)についての基本事項をお答えください。】

問1 ご回答いただく貴施設(社)の所在地及び従業員数・職員数(企業の場合は全体の人数)、業種をお答えください。

1) 所在地

所在地	回答数	割合	大分市からの回答が多く50%であった。次いで、別府市が10%であった。昨年より多くの市町村からの回答があり、県外では長崎県や東京都からの回答もあった。臼杵市と津久見市はなかった。
大分県大分市	30	50.0%	
大分県別府市	6	10.0%	
大分県臼杵市	1	1.6%	
大分県速見郡日出町	2	3.3%	
大分県由布市	2	3.3%	
大分県中津市	2	3.3%	
大分県杵築市	1	1.6%	
大分県国東市	1	1.6%	
大分県竹田市	2	3.3%	
大分県豊後高田市	2	3.3%	
大分県佐伯市	1	1.6%	
大分県玖珠郡九重町	2	3.3%	
大分県豊後大野市	3	5.0%	
大分県宇佐市	1	1.6%	
県外	4	6.7%	
合計	60	100%	

2) 従業員数・職員数

従業員数・	回答数	割合	50人未満の従業員や職員を有する施設が多かった。今年は、200名以上の従業員を雇用している企業が増加しており、3000人を雇用している企業もあった。
1～49	37	63.7%	
50～99	13	22.4%	
100～199	2	3.4%	
200～499	5	8.6%	
500～999	1	1.7%	
1000～5000	2	3.4%	

3) 業種

保育所（園）	11	18.3%	こども園と回答する内容が増加、幼稚園教諭が減少している。また、保育関連の業種や保育、教育以外での職種も増加傾向になる。
幼稚園	4	6.6%	
認定こども園	20	33.3%	
小学校	6	10.0%	
保育関連	5	8.3%	
施設・福祉	9	15.0%	
その他（サービス業・小売り業）	5	8.3%	
合計	60	100%	

問2 現在の本学卒業生が就いている職業（業種）をお答えください。[※複数選択可]

職業（業種）	回答数	割合	複数回答であり、保育士と保育教諭と回答が重複している。幼稚園教諭という回答が減少していた。小学校からの回答が増えている。
保育士	29	48.3%	
保育教諭	26	43.3%	
幼稚園教諭	2	3.3%	
小学校教諭	10	16.7%	
栄養士、調理師	8	13.3%	
児童指導員	1	1.7%	
不明	2	3.3%	
事務（受付、窓口業務、経理、接客等）	7	11.7%	
合計	85	141.6%	

問3 過去5年以内に貴施設に就職した卒業生についてお伺いします。

(ア) 現在、何名が在職していますか。[初等教育科卒業生]

在職人数	回答数	割合
1人	23	38.3%
2人	7	11.6%
3人	6	10.0%
4人	8	13.3%
5人	2	3.3%
6人	3	5.0%
7人	2	3.3%
8人	3	5.0%
9人	1	1.6%
10人	5	8.3%
合計	60	100.0%

多くの学生が施設や園で、1名程度で在職しているが、10人以上の卒業生が在職している園も多くあることが分かる。

(イ) 離職した卒業生がいる場合、以下の表に記載ください。(採用年月順)

	性別	採用年・月	退職年・月	在職期間	退職理由
1	女	令和3年4月	令和3年11月	6か月	一身上の都合のため
2		平成31年4月	令和5年3月	5年	私的理由のため
3	女	平成30年4月	令和3年3月	4年	自己都合
4	女	平成28年4月	令和5年3月	8年	自己都合
5	女	平成25年4月	令和4年12月	10年	結婚相手の仕事手伝いのため
6	女	令和2年1月	令和4年12月	3年	結婚のため
7		平成29年4月	平成30年3月	1年	転職のため
8	女	令和5年4月1日	令和5年4月13日	11日	自己都合
9	女	平成31年4月	令和2年3月	2年	転職のため
10	女	令和5年4月1日	令和5年5月30日	2か月	祖母の介護
11		H31年4月	令和5年3月	5年	結婚のため
12	女	令和5年4月	令和5年7月	4か月	自己都合
13		平成29年4月	令和5年3月	7年	語学留学のため
14	女	令和5年4月	令和5年4月	30日以内	不明(理想とのギャップ?)
15		令和4年4月	令和4年7月	4か月	不明(人間関係か?)
16		平成27年4月	令和4年3月	8年	自己都合
17		平成30年4月	令和5年3月	6年	自己都合
18		平成30年4月	令和5年3月	6年	自己都合
19		令和4年4月1日	令和5年1月31日	10か月	一身上の都合
20	女	平成30年4月	平成3年3月	4年	結婚のため
21	女	平成31年4月	令和3年10月	2年10か月	離婚 県外実家帰省
22	女	令和3年4月	令和5年3月	3年	結婚のため
23	女	平成30年4月	令和4年3月	5年	自己都合のため
24	女	平成31年4月	平成31年5月	2か月	自己都合のため
25	女	令和2年4月	令和3年3月	1年	自己都合のため
26	女	平成27年9月	令和5年3月	8年6か月	児童クラブ閉会のため
27	女	平成29年4月	令和4年9月	5年6か月	出産・育児のため
28	女	平成29年4月	平成31年3月	1年	一身上の理由
29	女	平成31年4月	令和4年3月	4年	体調不良のため
30	女	平成31年4月	令和5年3月	5年	結婚のため
31		令和5年4月	令和5年7月	4か月	
32	女	平成30年4月	令和5年3月	6年	結婚のため
33	女	平成31年4月	令和5年6月	5年2か月	結婚し中津市に転居するため。
34		平成29年4月	令和4年3月	6年	異業種の職種に就くため
35	女	平成30年4月	令和元年3月	2年	体調不良のため
36		平成27年4月	令和元年	5年	結婚
37	女	令和4年4月	令和5年3月	1年	妊娠結婚のため
38	女	令和3年度	令和5年度	3年	結婚のため
39	退職なしが13件あり。				

在職期間が1年以下での離職者が13名おり、その中で2か月以下の離職者が4名であった。

雇用主の認識による回答では、いずれの理由も自己都合であり、明確な理由としては、結婚や転職であることが示されている。

問4 新卒者の採用にあたり、重視していることはどのようなことでしょうか。

人間性 性格	真面目で礼節のある方 社会的常識（挨拶・コミュニケーション）・保育に対する意欲
明るい性格（笑顔・活発・プラス思考・ユーモア精神）	常に学ぶ姿勢 自然の笑顔 表情、受け答えがハキハキしている。一つ一つの所作
コミュニケーション能力	人と笑顔で明るく接する事ができる(コミュニケーション能力) 主体性 コミュニケーション力 など
保育教諭として必要なスキル	
心身ともに健康な人	元気で仕事に意欲がある方 明るく、元気な言動、柔軟な心。 *心身ともに健康な人 *コミュニケーション能力、行動力、協調性のある人
子どもへの愛情・子ども好きである	子どもが好きなこと、一緒に体を動かして遊べること、協調性があること
保育の仕事に対する情熱・姿勢	施設のカラーに沿って一緒にやっていけそうかどうか 本人が望んでいる仕事と弊社がマッチしているか
社会性	県教委に採用されているので、学校現場は配置された人材をいかに育てるかということを重視している。
自己研鑽と意欲	やり抜く力・我社に興味を持ち、やりたい事や目標があるか。 明るく何事にも前向きに取り組む姿勢

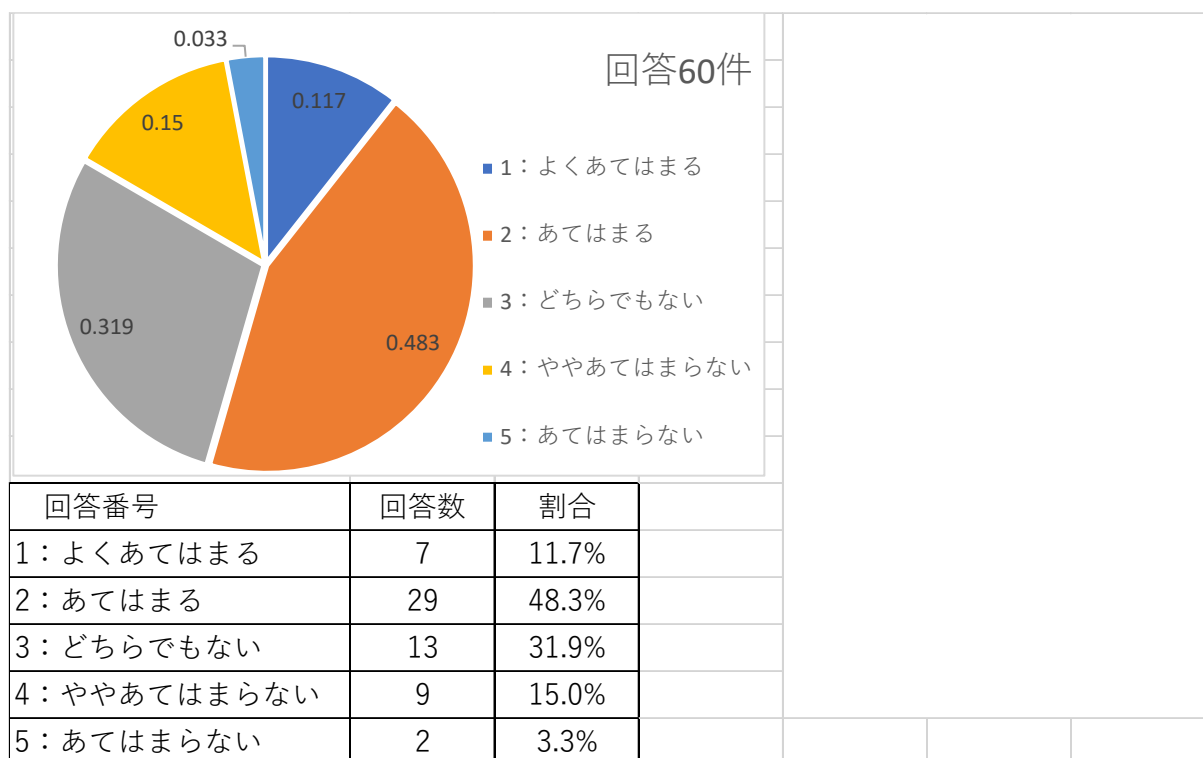
保育教諭としてのスキルより、コミュニケーション能力や対人関係スキルなど社会人基礎力や人としての誠実さが求められていることが見て取れる。人間性に関わる柔軟性や協調性、自己研鑽の意欲と同時に現場における社会性を重視していることがわかる。

【Ⅱ 2023年に就職した本学卒業生についてお伺いします。】

本学卒業生に対する印象について、問5～問9の項目において、5段階評価（該当番号をチェック）でお答えください。

A. 教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能について

問 5. 短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。

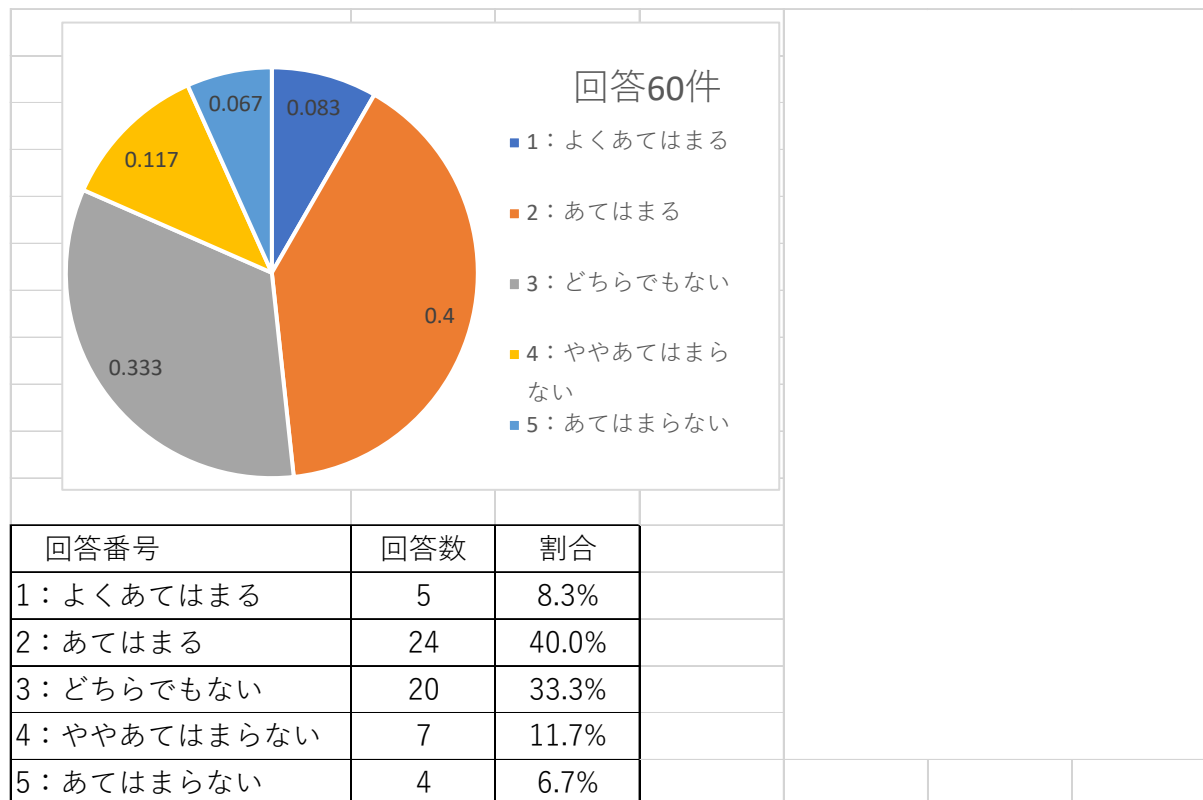


「1よくあてはまる」「2あてはまる」の割合を合わせると 60.0%であり、半数以上の卒業生が基礎的な教養を身につけていると評価されている。

しかし、「4ややあてはまらない」と「5 あてはまらない」を合わせると 18.3%の卒業生の評価が低い結果となっている。

B. 専門力(専門に関する基本的な知識、技能)について

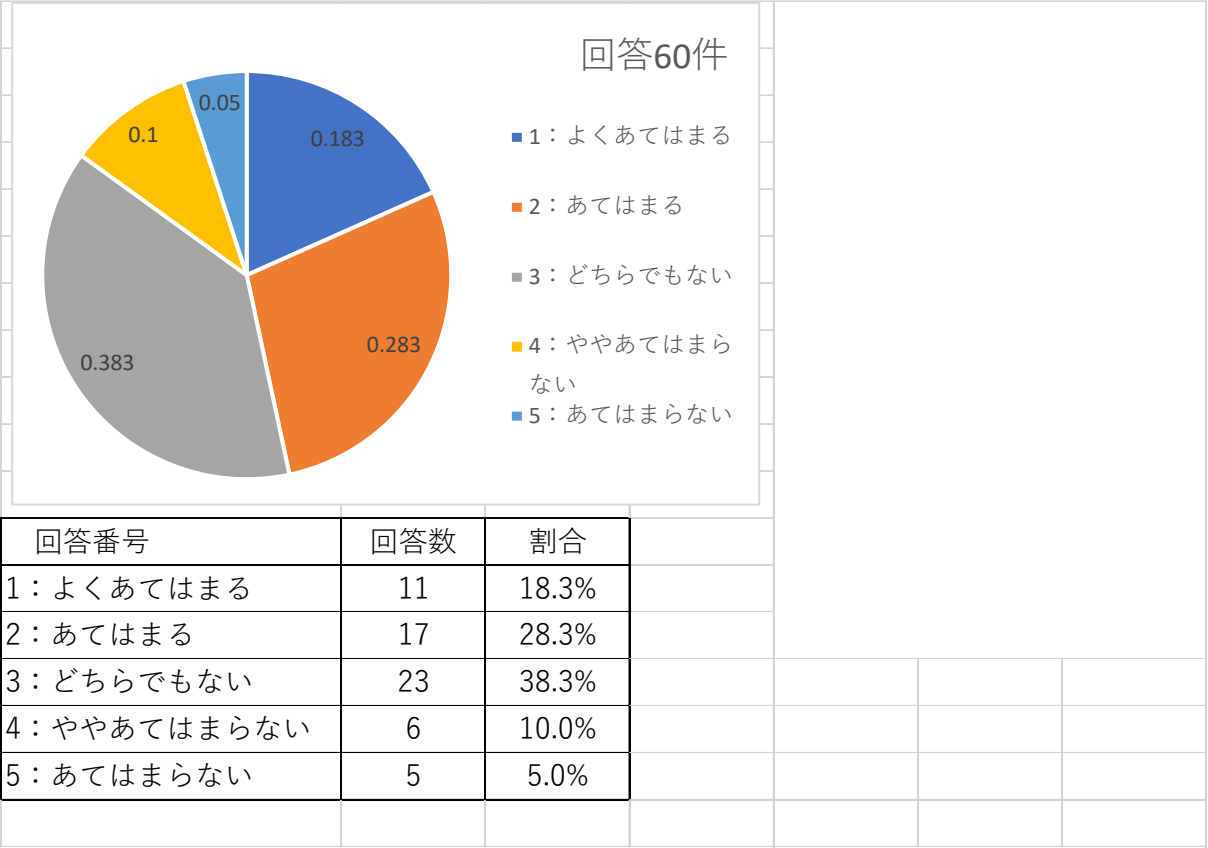
問6 専門に関する知識・技能を修得している。



「1よくあてはまる」と「2あてはまる」を合わせると 48.3%で、半数近くの 29 施設が専門力を評価している回答があった。

しかし、「4ややあてはまらない」「5あてはまらない」は 18.4%と昨年より高く、11 施設からは低い評価の回答があった。

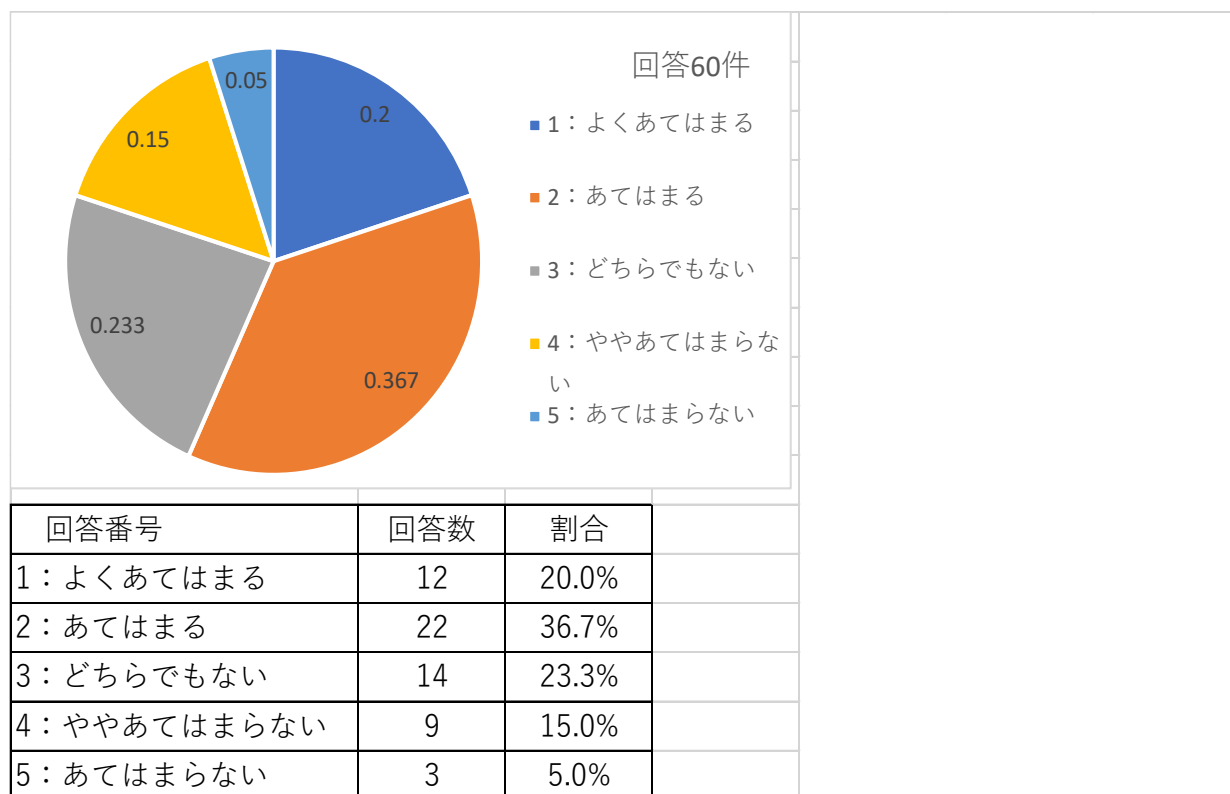
問 7. 判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができる。



「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせると 46.6%で、およそ半数近くが専門職としての職業生活が円滑に進んでいることが把握できる。しかし、「4ややあてはまらない」「5あてはまらない」は 15.0%であり、個人差が影響しているのではないかと考えられる。

C. 汎用力(社会で活躍できる汎用性のある能力)について

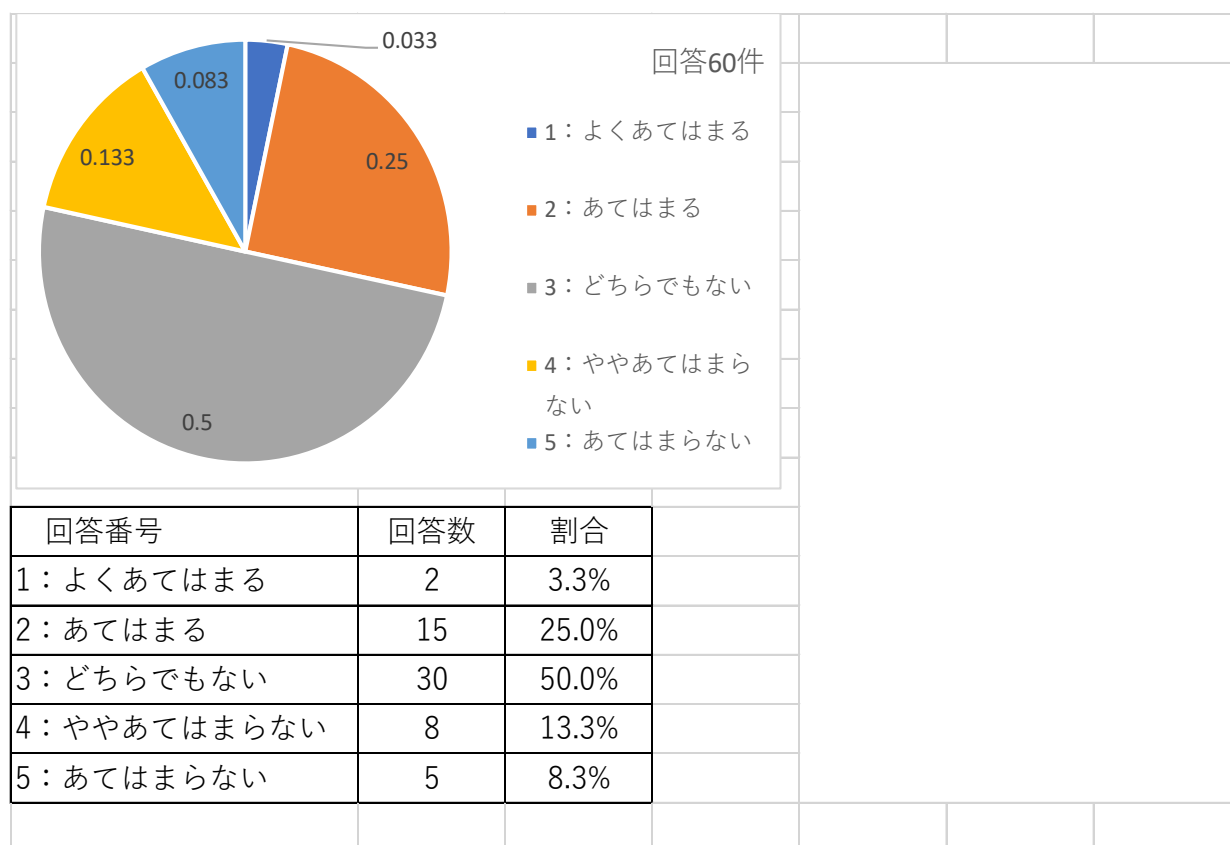
問 8. 社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じたコミュニケーション能力を発揮している。



「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせると 56.7%で半数を超えているが、昨年度の 73.3%から評価は下がっている。

加えて、「4ややあてはまらない」、「5あてはまらない」についても昨年度の 15.5%から今年度は 20.0%に上昇し、社会で活躍できる能力が発揮できていない卒業生の割合が増加している。

問 9. 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。



「1よくあてはまる」「2あてはまる」を合わせると 28.3%であり、昨年の 34.7%から評価が下がっている。「3どちらでもない」が半数を占めている状況である。

「4ややあてはまらない」「5あてはまらない」は昨年の 14.5%から、21.6%に上昇し、昨年より増して国際的な動向への関心が低いことがうかがえる。

問 10. その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

- ・こうした接点を持てるのはありがたい。
- ・小学校教員として授業をするうえでの基礎的な知識、教養を身に付けてほしい。
- ・就職活動をする際、民間の人材紹介会社や派遣業者のしくみを伝えてほしい。
- ・任命権がないので勤務の状況で回答いたしました。
- ・貴学の優秀な卒業生に活躍の場を提供することが出来なかった弊社の浅学を恥じるとともにこのような欄で申し訳ございませんがお詫び申し上げます。
- ・弊社を退社後に幼稚園教諭として新たな一步を踏み出したと伺っておりますので貴学卒業生の新天地での活躍をお祈り申し上げます。
- ・授業の中で実習園以外の園見学を取り入れて欲しい。
- ・園を退職の際、しっかりと話し合いの場が持てれば良かったと思います。
- ・2人の保育教諭が就職しているが環境に馴染んで頑張っている。
- ・お二人とも大変よくやっておられます。本校になくてはならない先生方です。しっかり学習を積み、送り出してくださってありがとうございます。
- ・免許状取得にふさわしい人材の育成をやっていただきたい。
- ・特にありません。よく頑張っています。現場で体験してたくさん感じています。
- ・障害児に対して理解しようと日々頑張ってくれています。仕事内容や職場に少し慣れてきたようで、自分からわからないことは聞き返したりできるようになってきました。難しい分野ですが、自身なりに考え取り組んでいるようです。
- ・貴学卒業生は大変良く頑張っています。
- ・今年、2 名の新卒者の方に来て頂き事が出来ました。本当に感謝申し上げます。
- ・どのような学生さんであろうと、ご縁を頂けた事に感謝をし、育てて行きたいと思っています。
- ・園としては、卒業生本人の仕事に対する考え方を伝えてほしいと考えている。
- ・今の時代ですから、私達受け入れ側は懐を大きく、寛大な気持ちで待っています。
- ・少子化とは言いながらも、生まれてきた子ども達は社会が責任を持って育てて行かなければなりません。この先の事はわかりませんが、今は一緒に子ども達に携わってくれる学生さんをお待ちしています。
- ・先生方におかれましては、学生の育成、ご指導と大変な事とお察し致します。
- ・今後とも宜しくお願い致します。
- ・来春も学生さんが来て下さる事を願います。
- ・今後も、やる気のある人材を育ててほしいと思っています。
- ・実習生の受け入れや、ボランティア、アルバイトなども積極的に参加してほしいと思っています。
- ・今の段階ではまだわからないところが多いです。
- ・卒業生、12 名でしたが記載の仕方が分からず、10 名にチェックしています。すみませんが、よろしくお願いいたします。”

「別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価

「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日

短大企画運営会議

目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

実施方法

- (1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目（教養 5 項目、専門 6 項目、汎用 4 項目）について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。
- (2) 4 段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

- (3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。
- (4) 3 領域（教養、専門、汎用）毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。
- (5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐（教務担当）に提出する（7 月 26 日（金）をべ切とする）。

評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐（教務担当）が集約する。

評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

平成 30 年 9 月 12 日
別府大学短期大学部学長裁定

1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況を評価する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況を評価する。

⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

食物栄養科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士（栄養学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

4段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。（問5）

評価（1～4）	理由
3	基礎的な教養の修得については、「よくあてはまる（9.1%）」と「あてはまる（54.5%）」の肯定的な回答が 63.6%であり、概ね6割の卒業生が基礎的な教養を身につけていると言える。「ややあてはまらない」と「あてはまらない」の否定的な回答が 27.3%と一部の卒業生については教養が身につけていないとの評価であったが、教養の DP 達成度は評価を3とした。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

教養の評価について、肯定的な回答は約6割であり、前年度（約7割）と比較するとやや低い結果となった。回答数は少ないが、基礎的な教養は概ね修得できていると思われる。施設によっては一部の卒業生について評価が低い回答もあったが、個別の意見で見られたように概ね高い評価を受けており、教養の修得に関しては一定の成果が上がっているものと考えられる。今後も進路指導や就職ガイダンス等において、社会生活に必要な基本的な知識や技能が修得できるよう指導を強化していきたい。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

- ・専門に関する知識・技能を修得している。（問6）
- ・判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。（問7）

評価（1～4）	理由
3	専門に関する知識・技能を修得しているかについては、「よくあてはまる（9.1%）」と「あてはまる（27.3%）」の肯定的な回答が36.4%であり、昨年に比べて肯定的な回答が低かったが、「どちらでもない（36.3%）」を含めると概ね7割の卒業生が専門に関する知識・技能を修得できていた。 また、判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができているかについては、「よくあてはまる（18.2%）」と「あてはまる（27.3%）」の肯定的な回答が45.5%であり、昨年に比べて肯定的な回答が低かったが、「どちらでもない（18.2%）」を含めると概ね7割の卒業生が専門職として職業生活を円滑に始めることができていた。 専門力の修得について、一部の卒業生については評価が低い回答がみられたが、専門力のDP達成度は肯定的な回答と「どちらでもない」を合わせて約7割以上であることから評価を3にした。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力の評価について、肯定的な回答は約3～5割であり、前年度（約7割）と比較すると低い結果となったが、一昨年度（約4割）とは同様の結果となった。回答数は少なかったが、栄養士として就職した施設からの回答が多かったことから、これまで以上に就職先や業務内容に合わせた指導を強化し、グループ学習や学外での実習の中で判断力や表現力を個々に伸ばせていけるよう指導していくべきだと思われた。

3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）

- ・社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している。（問8）
- ・国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。（問9）

（評価（1～4））	理由
3	社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮しているかについては、「よくあてはまる（9.1%）」と「あてはまる（45.5%）」の肯定的な回答が54.6%であり、概ね5割以上の卒業生が修得していると言える。 国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用してい

	るかについては、「よくあてはまる」の回答は0%であったが、「あてはまる」の肯定的な回答が36.4%であり、「どちらでもない」を含めると9割以上の卒業生が社会生活に必要な情報通信技術を活用できていると思われた。特に、「ややあてはまらない、あてはまらない」の否定的な回答は9.1%と少なく、情報通信技術の活用については修得できている学生の割合が増えてきていることが分かった。 汎用力のDP達成度は、肯定的な回答や「どちらでもない」の回答を合わせると5割から9割であることから評価を3にした。
--	---

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

汎用力の評価について、各項目において肯定的な回答の割合が前年度と比較して高くなった。一昨年度や前年度に比べて、感染症対策を講じながらも対面授業の回数が増えたことや学校行事などを実施することで汎用力の修得につながったと思われる。思考力、実行力やコミュニケーション能力がさらに修得できるよう個々の指導も含めて強化していきたい。

国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用しているかについては、前年度に比べて肯定的な評価は低くなってはいたが、否定的な回答が少なくなったことから情報リテラシー等の授業が強化されたことにより情報通信技術の修得につながったと思われた。

初等教育科「雇用主アンケート」による DP 達成度評価

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士（教育学）の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

短期大学を卒業した基礎的な教養（社会的な常識・知識、情報処理や外国語などの基本的なリテラシー）を身につけている。（問5）

評価（1～4）	理由
3	「よくあてはまる」との回答が 11.7%で昨年度の 7.2%から上昇し、「あてはまる」との回答の 48.3%を合わせると 6 割の学生が基礎的な教養を身につけているというアンケート結果を得たことで、評価を3とした。 しかし、「ややあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせると 18.3%の卒業生の評価が低く、昨年度の 8.6%を上回る結果となった。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

雇用主アンケートの評価から、3の評価が得られ全体として教養は概ね修得できていると思われるが、低い評価の卒業生の割合が増加し、教養力の二極化が顕著になったことがうかがえる。

自由意見においては、基礎的能力に関する厳しい意見もありながら、高い評価をする意見も認められた。多くの求人が寄せられる現状もあって、雇用主は教養力を身につけた本学の卒業生が就職することを期待し、歓迎している。学生の能力が二極化するなか、社会的な常識・知識等の修得が難しい学生の個別化した支援を検討する必要があると考えられる。

2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）

- ・専門に関する知識・技能を修得している。（問6）
- ・判断力・表現力を修得し、専門職として職業生活を円滑に始めることができている。（問7）

評価（1～4）	理由
3	問6については、8.3%が「よくあてはまる」、40.0%が「あてはまる」と回答し、概ね5割の卒業生が専門的な知識や技能を修得しているといえる。一方、「どちらでもない」との回答が 33.3%であり、「ややあてはまらない」11.7%、「あてはまらない」6.7%となっており、昨年度に比べ否定的な評価が微増する傾向が認められた。 また、問7については、18.3%が「よくあてはまる」、28.3%が「あてはまる」と回答し、概ね5割ができていると評価している。一方、「どちらでもない」と

	の回答が 38.3%であり、「ややあてはまらない」10.0%、「あてはまらない」5.0%となっており、昨年度に比べ否定的な評価が微増する傾向が認められた。
--	---

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力の評価については、3 の評価であり基礎的な専門力は概ね修得できていると考えられるが昨年度より若干の低下が認められた。

本学卒業生への専門力の修得について一定の評価を得ている一方で、専門職として職業生活を円滑に始めることができているかという項目において、2年間という短い期間であることの理解を示しながらも知識・技能のより一層の研鑽についての要望に加え、主体的な活動への参加も求められていたことから、授業をはじめ学校行事、研究会活動等の充実を図ることが求められる。

3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）

- ・社会で活躍できる思考力と実行力を備え、場面に応じてコミュニケーション能力を発揮している（問8）
- ・国際的な動向に関心を持ち、社会生活に必要な情報通信技術を活用している。（問9）

（評価（1～4））	理由
2	問8では、20.0%が「よくあてはまる」、36.7%が「あてはまる」と回答し、概ね6割が修得していると評価している一方、「どちらでもない」との回答が23.3%であり、「ややあてはまらない」15.0%、「あてはまらない」5.0%となっている。 また、問9では、3.3%が「よくあてはまる」、25.0%が「あてはまる」と3割程度にとどまっている。一方、「どちらでもない」との回答が50.0%であった。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

思考力、実行力、コミュニケーション力については概ね修得できているが前回の調査と比較すると若干の低下が認められた。就職先においても学び続ける意欲や姿勢が求められていることを学生の在学中から伝え、指導する必要があると考える。

現状から国際的動向については発揮できる事象や関心を向ける機会が依然として不足しているが、コロナの収束に伴い少しずつ国際交流も復旧することが推察される。情報通信技術については2割程度の学生が習得できていないことから、授業内での積極的なICT機器の活用が求められる。